



倉田小だより 1月号

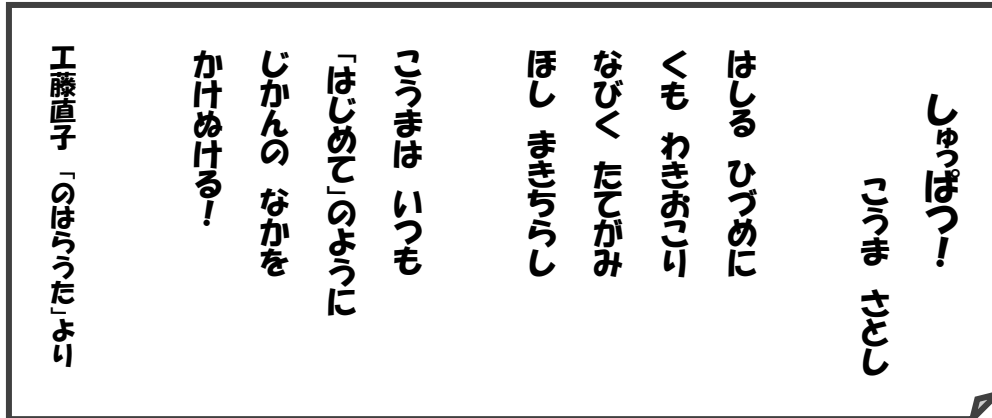


横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

しゅっぱつ!

校長 丹羽 多香



新しい年になりました。今年の干支は、午。

上の詩は、工藤直子さんの「のはらうた」の一篇です。「のはらうた」は、のはらに住む生き物たちが、それぞれの言葉で詩を綴り、それを工藤直子さんがのはらの代理人として書き留め一冊の本にまとめたという設定です。生き物の視点から日常や自然を描き、普段私たちが見過ごしてしまうような小さな発見や感動に出会うことができる私の大好きな詩集です。

さて、1月になり、こうまさとしくんの「しゅっぱつ!」を、常に頭の片隅に置いて、年始を過ごしました。題名の「しゅっぱつ」は、何を意味しているのかな?時間のなかを駆けぬけるってどういうことだろう…。自分の生活と重ねながらぼんやりと考える時間もありました。

一方で、お正月を迎えて、家族と昔話をしながら食事をしたり、年賀状で旧友と近況報告をしたりする機会を得て、温かい気持ちになりました。幼少期からたくさんの愛情をもらって育ってきたこと、良い友人に恵まれて自分らしく生活できたこと…。改めて感謝の思いを抱きました。多くの経験を積んで、反省したり新たなチャレンジをしたりしながら、よりよい未来を夢見たり、時には失敗して自己嫌悪に陥ったりしながらも、常に自分が帰る場所があり再出発できる環境で過ごしてきたことが、今の自分につながっていることを実感しました。

過去から現在へ、そして未来へ…。歩んできた道のりやそこで考え経験した一つ一つが、今の自分をつくり、未来の自分につながっています。時間のなかを駆けぬぐるとは、こういうことかと自分なりに解釈を得たような気になりました。

2026年が始まりました。こうまさとしくんのように、全力で今を駆け抜け、明日の自分を楽しみにできるように、倉田小学校の全職員で、子どもたちの毎日を応援していきます。今年もご理解ご協力をお願いいたします。

12月11日にプロのピアニストであり本校の保護者でもある近藤紗織さんをお迎えして PTA 主催のピアノコンサートが開かれました。日常生活でよく耳にする CM 曲からクラシックまで、たくさんのすてきな演奏を聴くことができ満ち足りた豊かな時間を過ごすことができました。また、著名な音楽家の幼少時代のエピソードなど興味深いトークも盛だくさんで音楽の楽しさを実感するひとときとなりました。



- ・非日常を感じるステキな会でした。途中涙がでるほど感動してしまい、日々の忙しさや疲れがなくなったように感じました。ありがとうございました。(保護者)
- ・音がきれいすぎて何時間でもきけそうでした。ゆびを見ていたけどめっちゃはやくてまねはぜったいできないくらいすごかったです。(5年)
- ・私は幻想即興曲が音楽の中で一番好きなのでとってもうれしかったです。幻想即興曲をピアニストの人がひいてくれているという経験は今回が初めてですごくすごく憧れました。ありがとうございました。(6年)